

HQR022-02

会場:201A

時間:5月24日 14:30-14:45

海上ボーリングコア解析に基づく完新世バリアシステムの復元：北海道東部厚岸湾沿岸地域の例

Developmental processes of Holocene barrier system based on borehole data for a case of Akkeshi bay area

重野 聖之^{1*}, 安藤 寿男¹, 七山 太², 古川 竜太², 熊崎 農夫博³, 嵯峨山 積⁴

Kiyoyuki Shigeno^{1*}, Hisao Ando¹, Futoshi Nanayama², Ryuta FURUKAWA², Nobuhiro Kumasaki³, Tsumoru Sagayama⁴

¹ 茨城大学, ² 産業技術総合研究所, ³ 厚岸町海事記念館, ⁴ 北海道立総合研究機構地質研究所

¹Ibaraki University, ²Geological Survey of Japan, AIST, ³Marine museum of Akkeshi, ⁴Geological Survey of Hokkaido

北海道東部太平洋沿岸地域には、本邦では珍しいバリアシステムが現在も存在している。しかし、この地域の後氷期海面変動研究は Maeda et al. (1992) 以降停滞しており、縄文海進期に形成されたと予測されるバリアシステムの発達様式も、その実態は定かとは言い難い。そこで我々は厚岸町と北海道開発局の協力を得て、まず厚岸湾沿岸地域の沿岸沖積低地で採取されたボーリング資料に基づいて地形断面図を作成し、その発達様式の概要を明確にした。これに引き続き、平成 21 年および 22 年 2 月に北海道開発局釧路港湾事務所が採取した海上ボーリング試料（以下、厚岸コア）を利用して、堆積相記載、分光測色測定、含泥率測定および粒度分析、貝殻遺骸群集記載、珪藻化石群集分析、電気伝導度および pH 測定、AMS14C 年代測定を併せて実施した。これと同時に、厚岸～根室沿岸地域の既存文献および厚岸コアの新規年代値に基づいて完新世海水準変動曲線を新たに編纂し直し、これに厚岸コアから得られた堆積環境情報を加えることにより、バリアシステムの発達様式をより詳細に解析することが出来た。その成果としては、厚岸大橋付近での海進面は標高 -50 m に存在し、その年代は約 11000 年前と推定された。また、沿岸漂砂によって湖北と湖南地域に砂嘴が発生し始めたのは約 7000 年前のことであり、その際の水深は約 16 m と見積もられた。このバリアシステムの成立により潮汐平底三角州が発生したと推測される。一方、このバリアシステムが現在も地形的に維持されているのは、過去 5500 年前から続く海面の停滞の影響が大きく、この時期に厚岸湖のカキ礁も潮汐平底三角州上に生成し始めたものと推測される。

キーワード: 北海道東部, 厚岸湾沿岸地域, 完新世, バリアシステム, 海面変動

Keywords: eastern Hokkaido, Akkeshi bay area, Holocene, barrier system, sea level change